

# 宇都宮の民話

## まむしの温情

山田川(やまだがわ)の水源地一帯はまむしの生息地として知られています。

むかしからこの一帯にはまむしがたくさん棲(す)んでいて、大まむしの伝説も残っています。

むかしむかし、秘境と呼ばれた山田川の水源地のあたりには、まむしがたくさん棲んでいました。春になると毎年かならず一人や二人は毒蛇の犠牲になるものですから、どうしたらよいかと人々は頭を痛めていました。

そんなある日のこと、水辺に近い草むらに一匹の大まむしがひなたで気持ちよく昼寝していました。すると、この暖かさで大まむしの腹の下にあったチガヤという草の芽が急に伸び出して、たちまち大まむしの腹を突き破ったのです。

大まむしはあまりの痛さに苦しみました。するとこんどは、大まむしの腹の下にあったゼンマイが急に軟らかい芽を吹き出して、苦しむ大まむしの腹を持ち上げましたので、チガヤの芽は抜けて大まむしの命はなんとか助かりました。

それからは、この辺りのまむしは温かい情を知り、村人たちに噛みつかなくなったというお話です。

( 終わり )

